

# 一 植付場所

次の諸点を考慮する。

(1) 日当りが十分であること。大体に日当りを好む植物であるから、すくなくとも一日四時間くらいの直射日光を受けることが必要であり、しかも西日は強く受けない方がよい。

(2) 通風が適度であること。強過ぎては種々の風害を受けるが、あまり無風の場合は病害の発生を招く恐れがある。

(3) 排水の良いところを選ぶこと。

排水がわるく水が停滞するようでは根腐れその他種々の病害発生の懼れあり、かかる場合は水掛けのよくなるように土地を改良する。

(4) 粘質壤土の畑がよい。「ばら」は根縛りのする土を好む。火山灰や砂質の多い場所ではこれに粘質土と腐植を多量に施して土に力を与え且つ保水力を添える。

二 肥料 「ばら」は著しく多量の肥料を与えてその効果が挙る植物であるから、

将来の成育上相当量の基肥を与え且つ追肥もたびたび与える。

(1) 基肥は有機質肥料が主となり牛馬糞、鶏糞、骨粉、魚粕、草木灰等であつて、窒素、磷酸、カリの比率が略一・二・一が標準である。つぎにその量であるが、前述のごとき配合割合を以て混合せる乾燥肥料を中以下の株では一株に二合、大株では四合くらいまで与えてよい。そ

も有機質肥料が主となり牛馬糞、鶏糞、骨粉、魚粕、草木灰等であつて、窒素、磷酸、カリの比率が略一・二・一が標準である。つぎにその量であるが、前述のごとき配合割合を以て混合せる乾燥肥料を中以下の株では一株に二合、大

株では四合くらいまで与えてよい。そ

えたものがよい。芽が動き出して後五月中旬から始まり、開花期と盛夏を除き二週間に一度くらい与える。

三 植付け ばらの植付時期は春秋二回

行いうるが、本道では早春期うのが安全であつて、秋に株を入手した場合には畑に仮植しておき翌春定植する。床はかららず二尺くらい掘り下げ植溝または植穴となし、排水のため瓦礫の類を約五寸厚さに敷き、その上に土壤を約五寸、この上に基肥をさらに五寸くらいの土壤を入れよく混和し、その上に植込む。比較的密に耐える植物であり、新苗木では株間一尺一尺五寸くらいで植えてよい。

植穴は十分大きくして根を四方に拡げてやり、穗と砧との接ぎ目を地表下一寸程の位置になるよう据える。まず掘上げ土の半分くらいを埋め十分灌水して、よく土が根の間に入るように軽く苗を動かしてやる。つぎに水の引くのを待つて残りの土を埋めた後、上から手で相当強く押さえてやる。

四 剪定 各枝に勢力を均等に分配し樹を強健にすること。さらに樹形を整え芽数を制限することによつて大きく且つ美しい花を開かせるために剪定する。剪定は

まず老衰せる枝、枯枝、病枝、細枝を除去し後強健充実枝の剪定に移る。剪定の時期は普通春秋二回行うが、春の剪定は新芽の動きはじめるころまでに行い秋季から見ると

強め剪定をなす。すなわち前年出た新梢の

黄合剤までは二週間おくよう注意する。

五 病蟲害 ばらの病害としては黒点病、ウドン粉病、銹病、円形斑点病、枝枯病、腐爛病、根頭癌腫病、萎黃病、害虫にはアブラムシ、チューレンゲバチ、アカダニ、カヒガラ虫等があげられる。実際問題としてまずは銅剤を以て黒点病等のボク減を期し、これに硫黃剤によるウドンコ病の予防を講すれば大体足りるものである。すなわち早春発芽前に一〇倍石灰硫黃合剤、二斗五升式ボルドウ液撒布を行い、発芽後三斗五升式ボルドウ液を二週間おき、その後は少くとも一〇日、ボルドウからつぎの硫黃合剤までは二週間おくよう注意する。

かくして茎葉部の病氣が防除されている。

根部の故障であるから、引き抜いてこれを

確認する必要がある。根部の病害はまず植替接木の際に注意して感染を防ぎ、且つ植込

畑の排水に気を配つておけば大体間違いない。

害虫には前記の硫黃剤、ボルドウ液撒布を勧めしておれば相当忌避的にはたらく。

それでも発生を見た時はそれぞれ特定の殺虫剤、駆除剤によつて退治する。

秋の剪定は極く軽く行う。とくに本道で

は冬枯れを見越してかかる必要があるから未熟枝、全く不必要的枝を剪除するのみですまし、本剪定は、春季にゆずることとする。

六 剪定

ばらの病害としては黒点病、ウドン粉病、銹病、円形斑点病、枝枯病、腐爛病、根頭癌腫病、萎黃病、害虫にはアブラムシ、チューレンゲバチ、アカダニ、カヒガラ虫等があげられる。実際問題としてはまず銅剤を以て黒点病等のボク減を期し、これに硫黃剤によるウドンコ病の予防を講すれば大体足りるものである。すなわち早春発芽前に一〇倍石灰硫黃合剤、二斗五升式ボルドウ液撒布を行い、発芽後三斗五升式ボルドウ液を二週間おき、その後は少くとも一〇日、ボルドウからつぎの硫黃合剤までは二週間おくよう注意する。

かくして茎葉部の病氣が防除されている。

根部の故障であるから、引き抜いてこれを

確認する必要がある。根部の病害はまず植替接木の際に注意して感染を防ぎ、且つ植込

畑の排水に気を配つておけば大体間違いない。

害虫には前記の硫黃剤、ボルドウ液撒布を勧めしておれば相当忌避的にはたらく。

それでも発生を見た時はそれぞれ特定の殺虫剤、駆除剤によつて退治する。

秋の剪定は極く軽く行う。とくに本道で

# ばらの露地栽培

## 植え方と育て方

